

住吉大社の歴史的景観変遷についての調査研究



活動の目的

- 1 | 住吉大社境内の石燈籠からみた大阪文化の伝播についての調査研究
- 2 | 住吉大社所蔵ガラス乾板に記録された住吉大社の歴史景観的復元研究

連携にいたる経緯

2012年7月21日に住吉大社吉祥殿で開催した地域連携シンポジウム「住吉大社と豊臣期大阪・関門一都市の祭礼と信仰をさぐる」(主催:住吉大社・関西大学大阪都市遺産研究センター)をきっかけとして、住吉祭等の調査を継続して行っている。

活動内容

(1)住吉大社境内の石燈籠の調査

境内と摂社に残っている634基の石燈籠の銘文の解読と分析を行い、調査結果に基づいて境内の石燈籠を紹介するイラストマップを作成し、2017年3月25日に現地でのガイドツアーを催した。また、ウェブ上でも見ることができるコンテンツの制作を行い、HPで公開した。
<http://www.kansai-u.ac.jp/naniwa-osaka/stonelantern/>

(2)住吉大社所蔵ガラス乾板のデジタル化と分析

昭和初期に撮影された600枚を超える未整理のガラス乾板のデジタル化作業と分析を行った。これらの成果をもとに、神事や祭りの様子が写った作品を2016年11月に関西大学で、2017年6月～8月には住吉大社本宮回廊で写真展示を行った。

また、境内周辺の地形図から、写真と解説の情報を開くことができるコンテンツの開発をおこない、HPで公開した。

http://www.kansai-u.ac.jp/naniwa-osaka/external_funds/mitsubishi/sumiyoshi/index.html

DATA

●主な連携先・メンバー

住吉大社／関西大学なにわ大阪研究センター／関西大学文学部教授 黒田一充／関西大学総合情報学部教授 林武文

●活動地域

住吉大社／関西大学なにわ大阪研究センター／大阪市／堺市

●活動資金

2016年度サントリー文化財団研究助成／第44回(平成27年度)三菱財団研究助成



活動の成果

- 1 | 石燈籠MAPの制作と石燈籠ツアーの開催
- 2 | ガラス乾板写真の展示(住吉大社境内・関西大学)
- 3 | ガラス乾板報告書作成
- 4 | 石燈籠・ガラス乾板のデジタルコンテンツ制作

今後の課題・目標

- 1 | 石燈籠報告書の作成
- 2 | ガラス乾板写真の大阪市内での展示

●教員紹介



関西大学なにわ大阪研究センター 副センター長、関西大学文学部 教授 黒田 一充(くろだ かずみつ)

専門は日本民俗学、庶民信仰史。とくに日本各地の祭祀や民俗信仰を中心に、儀礼や組織を歴史的な視点から研究している。祭りや民俗行事の現地調査とともに、地元の記録や文書類を使った分析を試みている。